

令和 4 年度第 2 回堺市中区政策会議 会議録

日時：令和 5 年 2 月 8 日 18 時 00 分から 19 時 15 分まで

場所：堺市 中区役所 4 階 大会議室

出席者：【構成員】（敬称略）伊藤久美子、太田佳世、金澤正巳、澤本美奈子、静又三、中辻さつ子、松居勇、森田裕之、桂恵輔、陳代修平、山口睦季、脇田利奈（以上 12 人出席）

【関係者】（敬称略）竹村浩充（中堺警察署生活安全課長）、村上敬（同課地域防犯係長）

【事務局】阿部勝彦（自治推進課長）、長谷英俊（自治推進課長補佐）、小林宏子（中保健センター所次長）、辻尾栄一（子育て支援課長）、野口正一（企画総務課参事役）、竹内秀和（企画総務課長）、城野武士（企画総務課長補佐）、重谷憲治（企画総務課企画係長）、川元慎平（企画総務課主査）、神楽所千花代（企画総務課副主査）

1 開会

○司会（川元） 傍聴にお越しいただいております皆様へお知らせします。傍聴にあたりましては、堺市懇話会の傍聴に関する要綱を遵守いただき、発言については固くご遠慮いただきますようお願いいたします。

また、あわせてアンケート用紙の方も添付しておりますので、中区政策会議についてご意見ご感想がありましたらそちらへご記入をお願いします。いただいたご意見については今後の参考にさせていただきます。

なお、この会議は公開で実施しております。事務局において写真撮影や録音を行っていますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

それでは、ただいまから、令和 4 年度第 2 回堺市中区政策会議を開催させていただきます。

私は本日の司会を務めさせていただきます、中区役所企画総務課の川元と申します。よろしく願いいたします。

本日の構成員の出欠についてですが、藤田構成員、山本構成員、小倉構成員、神崎構成員、貝谷構成員、高田構成員、西川構成員の 7 名におかれましては、所用のため欠席というご連絡をいただいております。

議事に入る前に今回の会議開催にあたりましてお願いがございます。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、会議時間を 1 時間程度とさせていただきますと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは次第に従いまして順次進めさせていただきます。まず開会にあたりまして、中区役所企画総務課長の竹内よりご挨拶申し上げます。

2 中区役所企画総務課長 挨拶

○竹内課長 本日はお忙しい中、今年度第 2 回目の中区政策会議にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私、中区役所企画総務課長の竹内でございます。

本日、西川区長におきましては、体調不良により急遽この会議に出席できなくなり、また影山副区長におかれましては、所用により、同じく参加することができず、僭越ではございますが、私からご挨拶させていただきます。

前回の令和 4 年度第 1 回会議に引き続きまして、こうして皆様のお元気なお顔を拝見しながら会議を進めていくことができまして、嬉しく存じ上げます。

今回の会議の開催におきましては、学生構成員の皆様からも意見を会議内容、ひいては区政運営により積極的に取り入れていくため、学生の構成員の方が集まり、お話いただく学生部会を昨年 12 月 23 日に試行的に設置いたしました。

会議内におきましては、参加した学生構成員の代表の方からご報告いただくことを予定しておりまして、報告内容を聞かせていただけることを楽しみにしております。

また今回は、体感治安を向上させる取り組みについてご意見、ご提案をいただくということで、中堺警察署の生活安全課長の竹村様、同じく生活安全課の地域防犯係長の村上様にもお越しいただいております。中区の現状や警察として、今後実施していくべき取り組みなどにつきましてお話しいただければと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

今後とも、皆様から活発なご意見をいただきまして、この区政策会議をより実りあるものにしてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○司会（川元） 本日、今の時点でまだ来られてない構成員の方から連絡が入っておりまして、中辻構成員におかれましては、遅れてのご参加との連絡がありました。また、三渡構成員に関しては残念ながら欠席という連絡が入っております。

それでは早速ですが、ここからの会議につきましては、森田座長に進行の方をお願いしたいと思います。では森田座長よろしくお願いします。

3 議事

○森田座長 改めまして皆様こんにちは。座長の森田と言います。皆様よろしくお願いいたします。

それでは次第に沿って進めさせていただきます。次第 3、議事、体感治安を向上する取り組みについてでございます。事前に、構成員の皆様にご意見を伺っておりまして事務局で意見をまとめていただきました。

まずは今回の設定理由を説明いただき、続けて、各構成員の意見についての概要を事務局の方から説明ください。

○司会（川元） 今回の議事の設定理由について説明いたします。

少し大きな話になるのですが、全国的な人口減少傾向と同じく、ここ中区でも、継続的に人口が減少しているという状態があります。

人口の減少は様々な問題を引き起こすことから、何らかの人口の維持・増加に寄与する取り組みの立案実施が、今後中区役所においても必要となっております。

そこで人口を維持・増加させるには、どういった観点での取り組みを推進していくべきかということ、複数の統計資料を用いて分析・検討したところ、定住志向において治安を重視するという傾向があることがわかりました。

以上のことから区民の皆様が、感覚的、主観的に感じている治安の情勢である体感治安を向上させる取り組みについて、皆様の率直なご意見ご提案をいただき、政策立案の参考とさせていただきたいということで、今回議事として設定の方をさせていただきました。議事の設定理由については以上となります。

続きまして、構成員の皆様からの意見の概要について説明させていただきます。

今回は体感治安を向上させる取組全般について、そして来年度中役所で事業化を検討しております中区青色防犯パトロール活動拡充事業（案）について、二つの観点でご意見をいただきました。資料 3 にまとめておりますので、そちらの方をご覧ください。時間の関係もありますので、いくつかのご意見のみを例としてご紹介させていただきます。

まず体感治安を向上させる取組全般については、オリジナルの防犯グッズやキャラクターを作成する、警察と協力した夜間の見回り活動の実施・拡充などについて、複数の構成員の方からご意見の方をいただきました。

次に中区青色防犯パトロール活動拡充事業（案）につきましては、有事の際に助けを求めやすいよう、従事者の方の顔が見えるような取り組みが必要であるといったご意見や、地域の方が乗っていることや、青色パトロール自体の趣旨があまりよく知られていないのではないかとことから、周知活動がもっと必要ではないかといったご意見がありました。

構成員の皆様のご意見を参考にさせていただき、今後の事業実施に取り組んでまいりたいと考えています。以上になります。

○森田座長 ありがとうございます。

ただいま事務局から説明がございました。説明内容でご意見ご質問等がございましたらご発言いただけますようお願いいたします。

よろしいですか、はい。

それでは次に昨年 12 月に開催されました学生部会について事務局に開催の経緯を報告いただきたいと思います。よろしく申し上げます。

○司会（川元） はい、それでは学生部会の開催の経緯について説明させていただきます。資料 4 番、令和 4 年度の中区政策会議学生部会報告の方をお手元にご用意ください。一番後につけてある A4 の横のものになります。

まず左上の緑の枠、学生部会概要をご覧ください。昨年 5 月に、令和 4 年度第 1 回堺市中区政策会議を開催しましたが、新型コロナウイルス感染防止のために会議時間を制限せざるを得ない中、学生の構成員の皆さんについては、慣れない公共の場であることもあり、積極的に意見を出しにくい、というような状態があったかと思えます。

せっかく多くの公立大学生に構成員として参加していただいておりますので、学生構成員の皆様からのご意見をより政策会議および区政の方に反映していくために、まずは学生だけで集まって話し合う機会を作ってみようということで昨年の 12 月 23 日に日程調整をさせていただきまして、試行的に実施させていただきました。学生部会の概要については以上となります。

○森田座長 はい、ありがとうございます。

続きまして、学生部会に参加いただいた学生構成員の 1 人でございます、桂さんに意見交換の内容についての概要を報告していただければと思います。では桂さん、よろしく願いいたします。

○桂構成員 はい。大阪府立大学応用生命科学類の桂恵輔と申します。先日開催されました学生部会において、参加学生で話し合った内容について報告させていただきます。学生部会報告をご覧ください。

学生部会に参加した学生内では、主に二つの意見が目立ちました。右上の黄色の二つの枠、課題 1、課題 2 をご覧ください。

一つ目は、課題 1 にある、治安が悪いと区民の皆さんが感じる原因や、犯罪発生原因などについて分析をすることで、より効果的な取り組みを実施すべきということです。

例えば、区民の皆さんがどういった観点や場所について治安が良くないと感じているのか、また何が原因で犯罪が起こっているのかなどについて、きちんと分析を行った上で、それらを解消できるような取り組みを区役所で進めてほしいという結論に至りました。

二つ目は、課題 2 にある犯罪認知件数の減少や、現在実施している取り組みについて、もっと周知が必要であるということです。

今回、事務局より事前資料を送付していただき、中区でも様々な区民の安全を守るための取り組みが行われていることを初めて知りました。

また、犯罪認知件数はどんどん減少しているにもかかわらず、他の区に比べて治安に不安を感じている人が多いというデータも出ています。

そこで、区民の皆さんにもっと中区の犯罪などに関する実情や、実施している取り組みについて知っていただき、思っているより、不安なことはない、自分たちは守られているという実感を持っていただく必要があるという結論に至りました。

それぞれの課題について提案していますので、左下の灰色の枠をご覧ください。

まず課題 1 につきましては、現状まだ分析ができていませんが、分析の結果に応じて、こういう取り組みをしてはどうかという具体例を複数挙げています。

例えば、住居への侵入盗などについて多く発生しているということであれば、住宅の出入り口へのセンサーライトの設置について補助金を交付し、設置を促進するなどといったことが考えられます。

他には、見通しの悪い公園や公衆トイレについて、区民の多くの方が不安に思っているようであれば、その部分を整備していくといった具合です。

次に課題 2 については、広報活動の手法について話し合い、啓発チラシを作成し、より多くの人に見ていただくにはどうすればよいかといった配布の方法や、SNS での発信が良いのではないかとということについて話し合いました。

続いて、右側の青色の枠、青色防犯パトロール拡充事業案についてですが、若者は青色防犯パトロール車両が走っていても、なんとなく回ってくれているなぐらいの感覚はあるものの、地域の方が自主的に行ってくれていることなどは知らないと思います。

そこで、まずここでも啓発チラシや広報誌によって、まず、青色防犯パトロール自体についての基礎知識の浸透を図っていくことが必要ではないかという意見が出ました。

また、青色防犯パトロール活動に協力する学生が、活動ごとに自らの所有する SNS アカウントで発信を行うことで、行政の公式アカウントでの発信とは違う層に情報が届き、また継続した発信ができるのではないかと意見も出ました。

また、青色防犯パトロール活動に従事する人たちが朝の挨拶活動を行ったり、防犯教室に参加したり、パトロール員の紹介をホームページで行うなどして、何かあったときに、地域の方がすぐに助けを求められる関係を作ることが大事ではないかという話も出ました。

最後に、学生部会自体についての感想といたしましては、自分 1 人で考えているよりも、事前に話し合い、質問させてもらえる方が、考えを深められるので、ぜひ今後も実施してほしいという意見が出ました。

ただ今回は、参加学生が少なかったので、今後はもっと多くの学生が参加できた方が、より良い意見交換が深まるのではないかと考えました。

学生部会の報告は以上になります。

○森田座長 桂さん、どうも報告ありがとうございます。

構成員の皆様からそれぞれたくさんのご提案ご意見、また学生部会におきましても、今ご発言ありましたように様々なご意見を出していただいております。

その内容をご覧くださいまして、新たなご意見として皆様のご発言をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

せっかく学生部会の報告をいただきましたので、私の方からお聞きたいと思います。

まずは青色の防犯パトロールの話と、今日はそれに対していろんなお話をいただきまして、その中でも特に SNS を利用した発信というようなことがありました。もちろんこれは非常に重要なご意見だと思いますし、以前の会議でもそういうことの重要性は、他の件でもご提案があったかと思います。

発信は重要だと思いますけども、ただ発信するだけではなかなか皆さんに響かないと言いますか、周知もなかなか・・・やっぱりこういうのって周知をしていただく人が皆さんの方を知ることがとても重要だと思うのですが、なかなか知らないことに対して単につぶやかれてもあんまり反応が悪いかなという感じがすると思うんですけども。

例えば、つぶやく時とか発信する時に皆さんが興味をもっていただけるようなポイントと言いますか、何かちょっとした発信の工夫みたいなものが話の中であれば、少しお話しいただければと思いますがいかがでしょうか。なかったら例えばこんなやり方があるのではないかというような個人のご意見でも。特に学生の皆さんいかがでしょうか。まずは桂さん。

○桂構成員 はい、そうですね。やっぱり自分の住んでいる街なので、その具体的な地名、例えば深井であったり、中百舌鳥であったり、具体的な地名とともに発信することで、より自分の身近に感じられるといったことは考えられます。

○森田座長 ありがとうございます。何かそういうアイデアについて、学生部会当日にお話しされる時は特には出ていませんか。

○桂構成員 そうですね。

○森田座長 そうですね、ありがとうございます。何かそういうプラスアルファのアイデアとかがあればお願いします。

○山口構成員 よろしくお祈りします。大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類 2 回の山口と申します。学生部会には出席できなくて、今思い付いた意見になってしまうのですが、最近、区役所であったり、自動車学校であったり、ちょっと言葉が良くないのですが、ちょっと硬い雰囲気があるところが、運営しているアカウントが、自分たち、一般の市民に近い感覚で楽しい雰囲気の投稿をしてみると結構流行しやすい傾向にあるなっていうのを自分自身すごい感じていて、若い子が SNS を使うとき、好きな音楽がついて投稿されているものだけを調べる方法とかもあって、その流行ってる音楽をつけて投稿することで、きっかけは音楽が好きで調べたかもしれないけど結果的にその区についての情報を取り入れるっていうのは一つ考えられるかなと思っていて、このパトロールを伝えたいっていう思いがあったとしても、まずはその学生や若い世代が、目に入れやすい、取り入れやすいところをベースにして、それに伝えたい情報を載せるっていうやり方が若者には響きやすいのかなっていう風に考えました。以上です。

○森田座長 なるほど、ありがとうございます。

今おっしゃいましたように音楽が一番いいかどうかはちょっと置いといて、例えば音楽とかで、それをきっかけに周知していただく一つのきっかけになるというのはおもしろい意見だなと思います。ちなみに何か聞きたい音楽とかありますか。

○山口構成員 考えてたのが、ティックトックメドレーみたいなのがあるんですけど、私が最近見たもので言えば札幌市の役所が、職員さんがみんな一緒に踊ってるっていうのが、町のご年配の方々が職員さんの横で一緒に踊ってるっていうのが、かわいい！みたいな感じで盛り上がったので、ティックトックメドレーというのは強いかなと思います。

○森田座長 なるほど。今言われて思い出しましたが、札幌じゃないけどなんかそういうちょっと堅い系の人たちが突然みんなで踊ってるみたいやつは拝見したことがあるような気はします。

ある意味なかなかそういうの難しいかもしれませんが、可能性の一つとして考えてみるのもいいかと思います。

○陳代構成員 大阪府立大学 3 年の陳代です。

今ちょっと SNS の話が出たのでその話に関連しているところでもあるんですけど、やっぱり SNS はその興味のあるものは集中的に入る一方で、興味ないものは全然情報が入ってこないっていうところにやっぱり特徴があるので、届けた

い層に対して伝わる範囲っていうものをしっかり認識した上で届けたい情報をそこに寄せていくような工夫も大切かなと思います。

正確な情報を伝えていくのはやっぱり大事なんですけど、正確性とプラス、若い人たちっていうか多くの人たちが興味を持つようなワードを掛け合わせるっていうところで、その届けたい人たちがあげる情報の範囲内にその届けたい情報をどんどん入れていくっていう工夫がやはり大事なのかなと思うと、今こういうものが例えば世間的に流行りなのかとか、どういふ情報を日々仕入れているのかっていう、ターゲット層の分析がすごい重要なところになっていくのかなと思います。

やはりその最終目標から逆算してってターゲット層をしっかり認識して、その人たちが今どういう情報を日々仕入れているのか、そこにどう合わせていくのかっていうところが大事なのかなっていうのを思いながら今お聞きしてた状況です。

○森田座長 はい、ありがとうございます。そうですね。

いろんな地域の人ターゲットなんですけど、当然地域のいろんな年代の人がいらっしゃるし、音楽だけではなくか難しいかもしれませんが、そういういろいろ工夫するっていうのが重要だと思います。他はいかがでしょうか。別に学生さんだけじゃなくても大丈夫ですよ。特に別に SNS の話でなくても。

○伊藤構成員 今、中辻さんの方から SNS の話を聞いてたんですけど、やっぱり年代差がありまして、60代70代のご高齢の方々にとってはちょっとまだまだ SNS という言葉だけでもちょっと聞いてないとなかなかアレルギーがあるところがあると思うんです。今でもその SNS っていう言葉は難しいかもしれないんですけど、ご家族の方とおばあちゃん、もしくはお父さんお母さんがグループ LINE を作って、家族での情報コミュニティというかそういったところを深めていってるところがあつて身近なものにはなりつつあると感じています。

その部分から SNS に少し慣れ親しんでいただいて、地域のコミュニティ、やっぱりコミュニティを作らない限り、なかなか発信というのは伝わりにくい。そのコミュニティの中で、先ほども言っておられましたけど、やっぱり柔らかい言葉で言うのがいいんですけど、普段の日常会話の中で、そういう「ちょっとうちこないだこのへん危なかったんやわ」っていうような言葉遣いの中で「そんな事件どこであったん」っていうのが間近に見れるような、発信の仕方が、そういうところが大きな一つの機能になってくるんじゃないかなと思います。そういう発信をどうやって繋げていってところになってくるんですけど、行政の中でコミュニティを作っていくのはなかなか進みにくいところがあるんですけど、地域ボランティア、そういったところの方々少しづつ広げていっていただいて、LINE に何か知らんけど最近よく深井のこと、中区のこの情報が届くようになったわ、というようなところからどんどん広げていくっていうのが、上手な SNS の活用というか、浸透の仕方じゃないかなと思うんで、そういったところを議論してもらえばありがたいなと思います。

○森田座長 ありがとうございます。

ネットではいろんな今おっしゃいましたような LINE などのアプリとかありますし、何もネットだけが全てというわけではなく、やっぱり年齢層によってはチラシとか、これまでの周知方法というのも重要なかなと思いますので、そのあたりはやっぱり適切なメディアミックスを考えながら周知をしていく、新しいアイデアがあれば、その中で使えるものがあれば、また参考にするというような姿勢が重要なかなっていう風に感じます。

他はいかがでしょう。本当にこの周知の話だけじゃなくて、実際のパトロールの話およびパトロール以外のご意見いただいた、例えばライトの件とか他の・・・何ですかね、防犯ブザーとか防犯グッズとか、そういうお話も色々ありましたので。

○中辻構成員 すいません、遅れまして申し訳ありません。

私も毎月1回は青パトに乗車させていただいてるんですけども、なかなか今高齢化で、地域は乗っていただく方がだんだん高齢化してまして、想いは皆さんあるんですけども。本当は夜も乗っていただきたいのは山々なんですけ

ど、だんだんと夜は運転できないという方が出てきて、現在夜は中止にしてるんです、地域でね。朝とお昼と、学校の登下校に合わせて青パト乗車やってるんですけども、本来でしたら夜もね、治安も心配ですし夜も回って、青パトするのが理想なんですけど、地域は1人の想いではできません。皆さんの想いで青パト乗車はやってますので、難しい時代になったなと思ってます。最初にやり始めた頃は皆さん一生懸命でいろんな方が参加して、各種団体も輪番制でやってますけれども、若い方はお仕事もありますし、地域においては、これから大変な時代かなと思ってます。

何かね、若い大学生の方などのお力を借りて、活性化できたらありがたいと思いますけれども、それもまたね、地域で検討した上でないと、なかなかできないかなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○森田座長 ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

○澤本構成員 すいません青少年指導員の澤本です。

先ほどの中辻さんのお話なんですけど、青少年指導員は、ほとんど夜のパトロールが活動なんです。最近ね、夜パトロールにまわっても、誰も見ないんですよ。

子供たちはたぶんうちの中でゲームをしながら、お友達と繋がってる状況が多いのかなあとあって、前は9時過ぎても公園でたむろしてる子とかいたんですけど、最近公園にも誰もいないような状況があるので、中辻さんのところでされている、登下校の時間にパトロールされてるっていうのは大変素晴らしいことだなと私は思っています。それと、安まちメールなんですけれども、いつも安まちメールが届くのはこういうことがありました！気をつけましょう！っていうことのための安まちメールやと思うんですけども、そこにいいこともたまに載せてもらえたら、ここの校区こんないいことやっているんだとか、今日はこういう良い事例があったんやなと思うと、また、じゃあ私も頑張らましようっていうふうになるかなあというふうに思うので、もっと良い情報も流した方がいいのではないかなというふうに感じています。以上です。

○森田座長 ありがとうございます。

確かに、そういう危険を知らせるといっても重要なんですけど、おっしゃるとおり、いいことをプラスとして大事なことを周知することが重要なかなと。同じチャンネルがいいのか別のチャンネルがいいのかはその後いろいろあると思うんですけど、一つのアイデアとしては、非常に面白いかなと思います。他はいかがでしょうか。

○太田構成員 すいません。子育て支援こころ育みネット代表の太田です。よろしくお願いいたします。

青パトの方なんですけども、私自身うちの地域は子供会の役員さんが順番で乗るっていう時代がありまして、今はもうやっぱり子供会の加入率がすごく低いので、その取り組みが5年ぐらい前かにはもうなくなったんですけど、なので何度か乗せていただいたときに、自分が住んでる校区なんで、道のこともたくさんよく知ってるって思ってたんですけど、いざ乗って走ってみると、すごい中の旧の道とかあまり人が通らないところの道とかも、こう行ってくれて、その地域の年配の方が一生懸命この道昔こんな田んぼがあつてどうのこうのって説明しながら2時間かけて運転してくれはったんです。それが私自身はすごく楽しくて、何かこういう普段自分が通る道ってやっぱり同じとこばかりなんで、自分の地域にもこういう道があんねんとか、ここの道を通って通学するのって危ないとかやっぱり体験して実感できたんで、本当に人手不足になってきてるっていうのもやっぱり実感はするんですけど、例えば小学校入学を控えた若い世代の親御さんとかに実際その保険とかの関係で乗れる乗れないは別として、小学校入る前に青パトと一緒に乗ってもらって、ちょっと地域の中を巡回する体験をしてもらうとか、何か若い世代の方にこう自分が普段見えてるものとは違う一面を見ていただくことで、ちょっと地域に対して、愛情が深くなるというか、いつも経験してないことをすると、また新たな何か気づきとか学びが出てくるんじゃないかなと思って、なんかそういうのを、本当やったら子供会とかがたくさん人が入ってたらその中から声かけて実現することも、結構できるのかなと思うんですけど、なかなか今その若い世代の方が本当に地域

の中でコミュニティを作ることがすごく難しいので、まずそのところから何か地域で考えていけてそういう青パトの方であったりとか地域のことに取り組んでいってもらえるような何か仕掛けていうか、楽しいイベントっていうか、そういうのができたらいいなと思います。

○森田座長 ありがとうございます。

確かにおっしゃるように、パトロールはパトロールで非常に重要だとは思いますが、それにとどまらず、そういう意味ですね、安全しかり内容をもっと深い、地域への愛着を生むとか、若い方に体験してもらおうとかそういうところは僕も重要なのかなと思います。

それに関していうと、確か松居さんが何かご意見をもってらっしゃったかなと。多分関連した感じだったかなと思うんですけど、よかったです。

○松居構成員 大阪公立大学の松居です。子どもパトロール隊のことですかね。

いくつかアイデアを出す形で意見を挙げさせてもらったんですけども、観点は話題性といいますか、なかなか今の既存の取り組みだと、区民の方になかなかうまく伝わっていないということもあるのかなというふうに思ったので、それこそ SNS の活用などもよいと思うんですけども、やはり話題にしたいようなこと、例えばようやるなあとかちよつとあほやなあということも含めて何か面白いと思ってもらえそうなことを真面目にいくつか考えてみたつもりです。その中の一つとして、大事にできたらどうかと思ったのは、防犯に関すること、自分たちのまちは自分たちで守ると、まあ理想的な言葉かもしれないんですけども、子供たち自身もそこに参加しているという実感を持てるような機会を何か作れないかなと思ったときに、あとは単純にうちの兄の話なんですけど、小さいとき迷子になってパトカーに乗ったことあるんですけどもそれを結構ずっと喋っていたので、割とそういうのを記憶に残るんじゃないのかなと思ってですね、子供自身が僕もパトロールしてん！っていうふうなことを言ったりしたら、それで、結構いわるなんですかね・・・どういったときに興味を持つのかを思ったときに、知ってる人がやってたっていうのがあるかなと思うので、友達が明日僕パトカー乗る日やねんって言ったら割と意識してくれるかなとかっていうふうに、地元、先ほどのコミュニティという話でもあったと思うんですけども、これも身近な人が参加してるっていうところの意味合いでも、何かハードルもあるかなと思うんですけども、子供であったりとか、自身も参加できないか、でそこに大学生も加わることで例えばその地域交流という側面を出しながら、場合によっては、世代間交流などを意識しながら取り組むことができれば面白いかなというふうに思ってあげさせていただいています。

○森田座長 はい、ありがとうございます。

いろいろ実現ということで考えるといろんなハードルもありますし何でもかんでも実現できるわけではないということは、少々やっぱり・・・なんて言いますかね、実際のその地域の方のコミットメントといいますか、実際関わるっていうの要素が入っていくと、単にやっぱりパトロールするよりもさらに効果があるのかなと思います。

他、別に今の件でもそれ以外でも・・・はい、よろしくお願いします。

○金澤構成員 どうも金澤です。防犯に関してですけれども、私も自治会でいろいろ見てきてる中では、自治会員さんが減少してきている中で、もちろん堺市が広報としてね、週に 1 回ですか、それはもちろん堺市民全世帯に行き渡ってると思うんですけども、その内容を見てる人がどれだけ居るのか、そこに全てが今いろんなあるような内容が載ってるか、いやそうでもないかもわからんし、反面、子ども会が人数が減ってるとか、会員が減るとかというのが現実なんですけれども、例えば学生さんがいろいろお話していただいて、青色パトロールの件も含めてですね、行政と一緒に青色パトロールが安全でまわるようにしていくというふうになったんですけども、それを、中辻さんが言われたように運転する人が高齢化になってだんだん減ってきたと、かつ、またその会員さんでない人がね、それに参加してもらえるかと言えばな

かなか参加してもらえない。町会の会員さんにもならない、いろんなその要因があろうかというふうに思うんですが、本当に全てが完璧にできるわけでは・・・なかなかこれは無理な話かなと思うんですけども。

やはり、まず私が思うのは、この町会員を行政の方でも増やさないとということではいろんな施策は考えてやってくれと思うんですけども、なかなかこう、さて 1 人 1 人の家庭になってくれば、子供が大きくなってからは・・・小さい間は子ども会一つにしても、参加してもらえますんですけども、五、六年経ってくると役をしないといけないからもうやめると、そしたら、いろんな形で高齢化になってもパトロールや、またそういった行事に参加してもらえる会員さんがもうほとんどで、なかなかもうそのすぐ自分の子どもが、また自分の町内で役もらってくるようになってきたらもうやめていくというようなことで、なかなか特に若い世代が入ってもらえない、入らないということが多いんじゃないかなと思うんですよ。もちろん町会でも各町会によってですね、この入会金とか会費とか若干違う部分があろうかと思うんですけども、入りにくい要因もまたあるとは思いますが、また、これを本当にいろんな形でパトロールしていただいている皆さんにとっては本当にそれを頼っている人は町会員でない人がほとんどやないかなって思うんですけど、これを何とか治安の良いようにせないかん、人口増やさないとってことも当然わかるんですけども、何から一つずつ手をつけていっていかかわからないんですけどね。

だけど、私個人的には、やはりこの町会員さんが減少してきているのが大きなやっぱ原因もあるんじゃないかなって思うんですけどね。以上です。

○森田座長 ありがとうございます。

○静構成員 金澤会長が喋っていただいたと思うんですけど、やはり現在、コロナ感染症で、本当に自治会っていう活動がやりにくくなったということは事実でございまして、それで青色パトロールについては、偉そうに言うんやないけど堺市で、福田校区が一番にやったわけでございますけど、やはり私ももう 80 歳を超えたから、青パトは降りた。自治会そのものが何でも役がしんどいから・・・私の提案でよく言うてるんですけど、自治会役員の定年を決めたらどうや、と。

隣組組長さんになっても、やっぱり一旦首突っ込んだらやめられへんということが事実でございますので、この辺の決まりっていうんですか、それから青パト、今青パトの話が皆出てるんですけど青パトはすごい良いことだなと思う。何かにつけて、今まで防犯スピーカーってというのがあったんですけど、今はそういうもんがないから何か起きたら青パトで回る。地域で知らすということなんですけど、青パトってというのは、動いたら動くほど水で走るわけと違うから、活動すればするほどお金がかかる。

まちづくり基金は私がやってるときに 100 万だけいたのがこれが今半分になった。活動しにくくなってきた。自治会ってというのは、組合組織のように、自治会費、地域の人自治会費で運営をやってるわけ。それを、補助金を減らされたら、自治会はやっていかれへんわけ。その辺のことも、行政の人は考えていただきたいかなとこのように思います。

そして、うちの校区は貧乏な校区で、自治会にそんな入会金貰うゆうたら一切入ってけへんわな。せやから、入会金とか自治会にそういう入ってくるお金っていうのは一銭もないから、やっぱり自治会費イコールなにやゆうたら、地域会館っていうのを貸し出して、その収益金をある程度地域のコミュニティに使ってるわけ。

せやから、やっぱりこのコロナでコミュニティがやりにくくなったっていうけど、青パト、うちの場合は、約 45 人ほどいてるんですけど、やっぱり年に 1 回ぐらいはお茶ぐらい飲もかとかいうような、それでそこでやっぱり意見を聞きながら、次の事業にやっぱり、いろんなこういうところを直してほしいとか、これを伸ばしてほしいとか、いろいろそういう話をするっていうことに対しては、人集まったら必ず金がかかるわけやからな。

だからその辺のこともやっぱり何とか、行政の方から補助金も出していただくようにしてもらわんな。

それでうちの場合は、新学期が始まったら、校長先生なり、先生が新しく来るわけ。新しい先生が来ていただいたら、登下校のときに、今日は校長先生乗ってもうたら次は学校の先生乗ってもらうわけ。ということは何やゆうたら、地域を

知らん先生、地域に来てもうたかてしゃあないから、地域覚えてもらうために青パトで福田校区はこっからここまでが福田校区ですよって言って案内方々、先生も同乗してもらわけ。

だから、さっき澤本さんが言われたけど、助手席に乗るのもうちの場合は講習受けていただいているわけ。だから、一般のお父さんに見学ちゅうんか、こんなんやってんやということで、乗ってもらうことに対して、いがかかなってということもあるわけ。だから、今日は警察の方から村上さんも来ていただいているけど、久世校区の夜間の事故があった。そのときのあれは保険が出なかったと聞いてんねんけど、保険がね。我々防犯やりながら、もうこれ 3 月、新しい人の名簿持ってきて一番先に私も怖いから、保険の加入をするわけ。そのこないだ中区で事故が久世校区の事故があったにもかかわらず、この保険が出ないとなってきたら、私ら活動ね、できないわけ。やっぱり私らは 1 人 1 人ずつ保証できへんから、保険というやつで守っていただかないかんねんけど、その辺のことを、この保険やったらもし、こういうひき逃げとか、やったらお金でえへんどかちゃんとそういう講習っていうかそんなこともやっぱり教えてもらいたいなあとこのように思います。

○森田座長 いろいろご意見いただきまして、ありがとうございます。支える組織をなんとかしていきたいということかなと思います。他、この際にご意見ありますでしょうか。

○陳代構成員 先ほども喋らせていただいたんですが大阪府立大学 3 年の陳代です。今自治会の話が出たのでちょっと話が離れはするんですけど、一応若い人が地域に関わるきっかけ作りの一つのアイデアをちょっとご提案できたらなと思っております。

予算の話があるんであれなんですけど、学生はやっぱり平日に普通に授業を受けててなかなか動きにくいっていう人たちも多いですし、今、結構昔の方から大学生暇やろうと言われるんですけど、全然暇じゃなくてですね、それこそバイトをしないとイケないって状況で、どっちかっていうと結構お金の苦しんであの数少ない時間をバイトに割いていて他に関わる時間があまりないってのが現状になります。

自分も学費は自分で払ってる身ですんでよくわかるんですけど、結構働ける場所があったら関わりやすいついていうところかなと思っているので、自分たちもよく話をするんですけどコミュニティバイトみたいなものがあればすごい嬉しいなっていうふうに、時々思うときはあります。学校の周りの地域で関わりながら地域のために何かいろいろすることで、例えばちょっとお金をもらえるっていうようなそういう仕組みを作っていけたらいいのかなあとというふうに思います。

特に下宿している学生だったりすると、自分が住んでる地域の周りで働きたいっていうふうな希望もすごいよく聞きます。自分も今白鷺には住んでるんですけど谷四の方まで通っているので、結構毎回通うのめんどくさいなと思いながら通ってはいる状況なんですけど、やっぱりバイトするってなると結構都市部に行っちゃうってところがあって、堺に残らないというふうな現状があるので、堺の周りという希望もありますし、あの働けるなら近いとこで働きたいっていうような希望もあります。大学終わってから数少ない時間をできるだけ働いていうことを考えるとやっぱり近い方がいいのでコミュニティバイトとかいうようなことがあればいいなと思ってます。これが地域に関わるようなきっかけにもなっていくなっていうふうに思ってるので、関わり方の一つとしてありなかなあと思ってます。

それこそ隣にいる山口さんのように、教育福祉学類の方で地域を学んでる学生もいっぱいいるので、地域のことを知るきっかけになればなとは思っています。あと、地域に関わるときのちょっとハードルの高さとしてやっぱり抜けるタイミングがわからないっていうふうなことをよくお聞きするところなので、例えば 1 年とか、何かそういう期間が見えてるような、何か関わり方みたいなものが提示できれば、関われる人が増えていけるのかなっていうふうには思っています。

あとはコミュニティバイトの予算のところなんですけど何か基金みたいなものを立ち上げて、例えば地元企業さんから協賛金を募ってその基金をもとに運用していくであたりとか、何かその地元の中で、お金が回るような仕組みみたいなものを作っていければ、例えば行政だけがお金出すんじゃなくて、地域みんなに関わりしろを作っていけるっていうような仕組みを作っていけるのかなというふうに思ったりするので、地域全体で地域のことを、地域を支える人を地域全体で

協力しながら何か負担していけるような仕組みを作っていけたらいいのかな、そこの担い手の一つとして例えば大学生みたいな僕たちは関われるのかなっていうふうに思ったりします。これは例えばリタイア世代であったりとか、分野も特に防犯だけじゃなくて例えば最近スマホ講座みたいな話とか、結構地域の方々からご要望いただいたりするのです。そういう風なところにも応用できるのかなと思ったりはするので、なんかこういうコミュニティバイトって、そういうような仕組みを一つ考えられるのかなと思っています。

山口構成員から追加の意見があるそうです。

○森田座長 それでは、どうぞ。

○山口構成員 追加じゃなくてちょっとまた別の話になるのでタイミングがずれてしまったかと思ったんですけども、コミュニティに関してなんですけど、これは私の実体験なんですけど、私自身下校中に不審者に会ってどうしようってすごい思ったときに、青パト走ってはいるんですけど、自分が助けてほしいときに近くにいないって状況もちろんありえて、そういうときに私が、青色パトロールの家っていうのがあって、その一筋に1軒ぐらいそれは多分自主的にされてるボランティアの方だと思うんですけど、何かあったら飛び込んできていからなっていうおうちが何軒かあって、そのおうちの方に、不審者に遭ったって言ってすぐ助けていただいたっていう経験があるので、青色パトロールにプラス、その青色防犯の家みたいなのができたらいいなっていうのは考えていて、先ほど高齢化で、なかなか実働的に動くのが難しいっていう話もあったと思うんですけど、家でそこにいてだけで、防犯に携われるっていうそういう関わり方もあるのかなっていうのを、一つ考えました。

コロナでコミュニティ作りがなかなかできないっていう話もあったと思うんですけど、みんなで集まって、屋内でぎゅって集まるとやっぱり駄目だと思うんですけど、ウォークラリーみたいな感覚で外で歩く分には集まってもいいんじゃないかなっていうふうな気もして、青色防犯の家として、ご協力していただける方を探して、その方の家を、ここ行っていい家やでっていうそのウォークラリーみたいなのをしたら、子供たちも顔見知りの人であつたら助けを求めやすいし、防犯の家を知ってる方同士が繋がってそれもまた新しいコミュニティになったりとかして、すごい一つの取り組みで様々な効果があるんじゃないかなっていうふうに考えました。以上です。

○森田座長 はい、ありがとうございます。

○静構成員 今のね、反論じゃないんですけどね、やっぱりこの頃おっちゃんとおばちゃんとお風呂さんやっていると、八百屋さんやっていると、そういう田舎に商売がもうなくなってきたわけ。だから、そういう今おっしゃっていただいた、子供110番の旗とか立てていただくことに対しても、いつも家に誰かが居るとこで立てていただかな。うちはほな旗立てるわ、ゆうて立てていただいても玄関が鍵しまつたら意味ないわけよ。

だからね、皆さん、働いて汗かいて働いて、自分のお金やから、どこの店で何を買うとかまへんねんけど、そやけど自治会費、また堺の助成金で買うときには、地域であるものは地域でこうたってくれと、これは私の考え。

それに今の若い人はインターネットでこうたら安いになって言ってインターネットで買うわけ。ほんなら、地域である商売が、だんだんつぶれんなしやあないわけ。だから、その辺のことも、若い人と私らとは意見が合わんとこが出てくるわけやっぱりな。その辺のことも考えていただきたい。

そして、おたくのような若い人の考えを反対に教えてほしいわけ。わたしらもうぼちぼち、自治会、どないやたら増えていくんかなと思って、そればかり模索してるわけ。だから、若い人が今言ってる、学生さん暇なことないよ、忙しいよ、そんなんわかってるよ。忙しいよそら。

だからそんな学生さん暇やなんて絶対思っていない。だけど、もうちょっと住んでる地域ちゅうんかその辺に目を向けていただきたい。ほんで入って来ていただいたら、うち隣にいてるの大きな企業の社長会長さんやさかいにまた地域のアルバイトちゅうんかそんなことで、ね。大阪まで行かなくても、ここでできるかもわからん。だから、何とか地域に向けて、教えていただきたい。もう頼みます。

○森田座長 いろいろご意見いただいているんですけど、一応最初のお話どおりコロナで1時間程度としているものですので・・・ちょっと予定しているより長く皆様にお話しいただきました。今回お話いただきまして、パトロールと言っても、やはりその背後の色々お話しして関係することたくさんあるんだなあということがわかりましたので、これを機会に、また実現に向けていろいろ調整っていうのはですね、今日のご意見を参考に、より良いものにしていただければと思います。

それでは最後になりますがよろしいですか？それでは最後一言だけどうぞ。

○脇田構成員 今回、話がなかったと思うんですけど、治安の不安を抱えてるのが子育ての人が一番抱えてるっていうようなデータだったので、そこが一番取り組むべきかなと私は思っていて、その提案として小学校との連携が一番必要なと思っています。呼びかけだったりとか、安全のチラシとか、そういうのはいろいろあるかなと思うんですけど、呼びかけられるだけだと逆に不安になってしまって、お母さん、逆にこんなことも気をつけていうふうになっているのをよく聞くので、親子で参加できるプロがやってる講習みたいなものを小学校で開いてもらえると、親子ともに安心できるんじゃないかなと思ったのでそれだけちょっと今日何も発言しなかったものでこれだけ失礼します。

○森田座長 はい、ありがとうございます。

今いただいた学校と関係する話かなと思いますのでちょっとまた、ご検討いただければと思います。

それでは、最後になるんですけども本日は中堺警察署の生活安全課長の竹村さんと、同じく、生活安全課の地域防犯係長の村上様にお越しいただいております。本日の会議をご覧いただきまして、何かご意見、ご感想や今後の警察の取り組みについてなど簡単にお話しいただければと思います。

○中堺警察署生活安全課竹村課長 中堺警察署生活安全課課長の竹村と申します。よろしくお願いします。

警察におりますと、なかなかこういう若い方とか地域住民の方といろんな意見を交わすということは、ないことはないんですけど、なかなかこういう会合がなくてですね、非常に面白く興味深くお話を聞かせていただきました。

特に学生部会、桂さんの方で発表されていた報告ですね。まず中区の治安がですね、他よりも悪く感じられるという発言がありました。その中の要因として、どういう観点で治安が良くないと思うか、落書き、ポイ捨て、高架下、公園。昨年末から中学生ですね、それが夜な夜な集まって言うたら悪さする。公園で落書きしたり、集まって夜な夜なコンビニでたむろしてる。集まるのが公園・高架下・河川敷。その他いろんな事件等いろいろもろもろあって、ちょっと中学校なんかでは若干これどうかという事件がありました。

中堺警察署の方でちょっと集中的に少年係および本部と連携いたしまして、かなり検挙活動等強化いたしました。その結果かどうかわかりませんが、最近夜な夜な誰も歩いてませんよと言われたのは、そういう結果がちょっと現れたのだったらよかったなあと思いながら聞かせていただきました。

また、この中で犯罪がどういった原因で起こるとか、どういった場所で犯罪起こるとかということの情報をもっと上げてほしいという意見もありましたけども、皆さんご存知でしょうか。安まちアプリを府警の方で配信させていただいております。

安まちメールでも配信させていただいておりますけれども、その中に防犯マップ機能というのもありまして、これを確認いただけましたら、例えば女性被害、どこら辺で起こったんや、ということが起こったんやというのを簡単にわかるような

形になっております。ピン付けで出てきますので、どら辺で多く発生しているということも、一目瞭然でわかるようになっております。

怖いときに逃げ込んだという話もありましたけど、いざというときは防犯ブザー機能もありますので、ぜひ、もし知らない方がおられましたら、活用していただきたいと思います。

今日は体感治安という内容でしたけども、中区だけのアンケートというのはなかなかないんですけども、例えば警察庁が昨年末に行ったアンケートですね、実は体感治安、最近 10 年で日本は良くなったと思うか悪くなったと思うかという質問をさせていただいたところ、およそ 67%の人がどちらかという悪くなった、悪くなったと思う方が 67%で良くなったと思うという人が 14.9%しかいない。ただ、犯罪の発生件数は今年 20 年ぶりに刑法犯が増加しましたというニュースを見られた方もおられるかもしれませんが、例えばひたたりとかですね一番多いとき平成 12 年 1 万 973 件、これ大阪府です。それが去年では大阪府下 130 件。空き巣とかが多いですね、これが平成 15 年 2 万 2683 件、昨年大阪府で 1498 件。かなり激変しております。件数だけ見ましたら、体感治安というのはかなり良くなっております。犯罪だけが体感治安であればですね、良くなってははずだと。ただですね、犯罪情勢も大きく変わってきております。

平成 15 年当時なかった、数は少なかった特殊詐欺とかですね、あとはサイバー空間からの犯罪、例えば毎日 SNS 見て、変なメールが送られてこないようにセッティングしてるかもしれませんが、私の携帯なんかでも毎日何件か入ってきます。これもある意味犯罪に毎日触れてるという形になります。

特殊詐欺なんかも犯罪発生件数自体は千件ちょっとですけども、ただその予兆電話なんかではその 10 倍以上の電話がかかってきて、そういう数の方が不安を感じているというところなんです。

大阪府警でですね、こういったところで今年の重点目標、子供や女性の安全を守るための諸対策の推進、あとは特殊詐欺の撲滅に向けた総合対策の推進、サイバー空間の安全を確保するための諸対策の推進ということを府警一丸となって目標を立ててやっている。

ただ、なかなか特殊詐欺、どうやって減らすんやというところはなかなか府警も試行錯誤している状態です。いろんなポスターを作ったりとか、安まちメールで今こういう予兆電話がかかってきましたよというようなメールを流させていただいたりとかですね、例えば巡回、交番のおまわりさんがまわったときにはこういうことがありますんで、注意してくださいねと声をかけたりとかですね、そういうこともやっております。

ただ警察だけではですね、どうしてもそういうことで、警察に接触できる方っていうのは限られておりますので、ましてや高齢者の方はホームページとかで流してもですね、なかなかそれを見ていただける方がおられない。今日はこういう防犯意識のですね、関心持たれた方がおられますので、ぜひ、どんな情報とかはですね府警のホームページとか見ましたらいっぱいどうおいてます。また見ていただいてですね、そういうこと地域住民特に自分の身近な方から結構です。自分の両親とかですね。警察官の親でもですね特殊詐欺にあったという方も実際おられますんで、まず身近な方から、特に特殊詐欺とか、こういう犯罪は注意してねという声かけをしていただきたいなと。そういった 1 人 1 人の活動が特殊詐欺をなくしたりであるとか、あとはサイバー犯罪もそうですね、どういったサイバー攻撃があってですね、安易にパスワード・IDを入れたら駄目ですよとか、不用意にアプリをインストールした人がですね、また自分の携帯を踏み台にされて他の人を攻撃するとかですね、サイバー攻撃またはランサムウェアなどですね、企業のデータが暗号化されて最近では大阪府の急性期医療センターがサイバー攻撃にあって、いきなり診療ができにくくなるような事案もあったんですね。こういった大きな犯罪を止めていくには 1 人 1 人のご協力を得てやっていきたいと思っております。

また青パトもですね、日ごろ回っていただきまして、なかなか回っていただくのもご苦労があるということは、実感させていただきました。警察もできるだけ協力させていただきたいと思っておりますので、引き続き、ご協力の方よろしくお願い致します。長くなりましたけど以上です。

○森田座長 はい、ありがとうございました。

本日は構成員の皆様から、活発なご意見をいただきました。また今、中堺警察署の竹村様からもご意見いただきまして誠にありがとうございました。

事務局におかれましては、構成員の皆様からいただいたご意見を踏まえまして、今後の区政の運営に活かさせていただきますようお願いいたします。

それではこれで本日の議案は全て終了いたしました。

本日の議案あるいはそれ以外でも何かご意見ご質問ございますでしょうか。

議案内容に対する意見や何かご不明な点がありましたら遠慮なくまた事務局の方におっしゃっていただければと思います。

それでは以上をもちまして第2回、堺市中区政策会議を閉会させていただきます。

構成員の皆さんにおかれましては、第2回会議の開催の方にご協力いただきまして誠にありがとうございました。

それでは以上で終了します。